

児童発達支援・放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果表

令和5年度実施

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11				<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防の観点からも、一つの空間に人が多くなりすぎないようにしている。 ・机やパーテーションを利用して、利用児が集中できる環境を整えている。 ・活動できるように人数を調整している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士の関わりが空間で区切られてしまうので、児童の目標やプログラムによって、空間の共有も必要。
	2	職員の配置数は適切である	11					
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	6	3		<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子でも入れる部屋がある。 ・階段には手すりがついている。 ・階段に手すりがついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・階段がある。 ・2階の部屋には階段でしかいけない。 ・階段が一段一段高く、急なため危ない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11				<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、職員同士で話し合い、情報を共有している。 	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11				<ul style="list-style-type: none"> ・毎月アンケートを取ったり、適宜事業所内相談をお受けしている。 ・保護者の意向を共有している。 	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11					
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	2			<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーバイズを受けている。 	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11				<ul style="list-style-type: none"> ・理事長からの推薦で、あるいは本人の希望で、研修を受けることができている。 ・研修の機会がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容の共有を行う時間が増えるとよい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11				<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージを用いてアセスメントを行っている。 ・職員同士でよく話し合っている。 	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11				<ul style="list-style-type: none"> ・太田ステージを活用している。 	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	11				<ul style="list-style-type: none"> ・内容が固定化しないようにしている。 ・毎月ミーティングで話し合っている。 	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11				<ul style="list-style-type: none"> ・新しい活動を職場で共有している。 ・毎月ミーティングで話し合い、様々なイベントやグループ活動をしている。 	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	3			<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇では、季節に合ったイベントを開催している。 	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11					
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11					
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	2			<ul style="list-style-type: none"> ・困ったことや気づきなどその都度報告し、相談している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了後に出来ない場合は翌日改めて行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11					
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	11					
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	9			2		<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの周知を徹底していく。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			2		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7	2		2		・保護者の依頼に応じて、学校と情報共有、連絡調整を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	11					・てんかん発作の可能性がある児が利用する際は、提携医療機関と連携している。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	5		2		・機会があれば、学校や園、保護者との会議に参加させてもらうようにしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	3		2		・保護者の依頼に応じて、障害福祉事業所等と情報共有を行っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9			2		・発達支援センターの研修会に参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			9	2		・外部施設を利用した際に、偶然に交流することはあるが、計画的に交流する機会は設定していない。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	11					
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11					・送迎時に保護者と活動時の様子をお伝えし、共有している。 ・送迎時に行っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	2				・適宜事業所内相談をお受けしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			2		・契約時に丁寧に説明している。 ・職員にも周知徹底をしていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11					・適宜事業所内相談をお受けしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			9	2		・保護者会については、希望を確認しながら開催の可否を検討していく。また保護者が知りたいと思っていることを集約し、情報収集、周知をしていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9			2		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9			2		
	35	個人情報に十分注意している	11					
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			2		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	7	2		・地域のお店に社会体験させていただくなど、協力していただいているが、施設にお招きすることはない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9			2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			2		・消防士から利用者だけでなく職員も指導を受けている ・様々な災害を想定して避難訓練をしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			2		・毎月アンケートを行い、振り返りを行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9			2		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	4		2		・利用フェイスシートに記入してもらっているが、調理自習等がある時は改めて確認をしている。 ・調理実習では事前にアレルギーを確認してから、参加してもらうようにしている。 ・調理実習の時にアレルギーの確認をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			2		・ヒヤリハットが発生した際はすぐに職員間で情報共有を行い、事例として残している。